

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
<b>治燥剂 軽宣潤燥剂 1</b>		
<p>きょうそさん 杏蘇散</p> <p>温病条弁</p>	<p>軽宣涼燥・宣肺化痰</p> <p>&lt;主治&gt; 外感涼燥 軽度の頭痛、悪寒、無汗、咳嗽、稀薄な痰、鼻閉、咽の閉塞感、舌苔が白、脈が弦などを呈す。</p> <p>&lt;病機&gt; 晩秋の乾燥と、寒冷による涼燥の邪の侵襲を受け、肺気不宣を呈する状態であり、「小寒」による表寒証に相当する。 涼邪（小寒の邪）が束表し衛気が鬱するので悪寒、無汗がみられ、経気が阻滯されて頭痛が生じるが、寒邪襲表のような強い症状ではない。小寒の邪が肺系を傷害し、肺気の宣降を阻み水道の通調も不十分になるために、咳嗽と共に水飲による稀薄な痰が現われ、肺竅である鼻や、肺系の咽は肺気鬱遏のために閉塞の傾向を示す。脈が弦は、寒邪と、内生の水飲をあらわす。 本証においては燥邪の関与はあまりなく、治方上に配慮がみられるに過ぎない。</p> <p>&lt;方意&gt; 涼燥は小寒であり、乾燥した気候でもあるために、強く解表して汗を多く出させることは禁忌であり、軽宣によって表邪を除くと共に宣肺化痰を配合する。 辛温の紫蘇葉で微汗させ、疏風降気の前胡と宣肺の杏仁で散邪を補助する。桔梗と枳殻は一昇一降で、気機を行らせて散邪を助け祛痰する。半夏・陳皮・茯苓は、祛湿化痰に働く。生姜・大棗・甘草は、営衛を調和し諸薬を調和させる。全体で発表宣肺、和気化痰、止咳の効果が得られる。</p> <p>&lt;参考&gt; 本方（杏蘇散）は、参蘇飲から人参・葛根・木香を除き、杏仁を加えたものに相当する。 参蘇飲は虚弱者の外感で、風寒襲肺に適用する。本証（杏蘇散証）は涼燥襲肺で、表証が軽微であるから発散の葛根を宣肺の杏仁にかえ、正気は虚していないので人参を除いている。 本方（杏蘇散）は、涼燥の代表方剂である。</p> <p>加減法 悪寒がつよければ、葱白・淡豆豉を加える。 頭痛がつよときは、防風・川芎を加える。 咳嗽、多痰には、半夏・陳皮・茯苓を増量して紫苑を加える。 痰が少ないときは、半夏・茯苓を減量する。</p>	<p>紫蘇葉・半夏・茯苓・前胡・桔梗・枳殻・甘草・生姜・陳皮・杏仁各6g・大棗2g 水煎し服用する。</p>